



戦争犠牲者の名前を刻んだ岩板を取り付ける作業員ら  
17日午前10時すぎ、糸満市摩文仁の平和の礎

## 追加62人を刻銘

平和の礎  
岩板設置

沖縄戦で亡くなった人々の名前が刻まれている糸満市摩文仁の平和の礎で17日午前、2013年度に追加の刻銘が決まった62人(県内46人、県外16人)の名前を刻んだ石の板を取り付ける作業が行われた。太平洋戦争のときに広島県や長崎県に原子爆弾が落とされて被害を受けた沖縄出身者16人が確認されたこともあり、ことしの刻銘数は過去最低だった昨年度(36人)を26人上回った。

読んで  
広がる  
NIE

はなれい岩と呼ばれる黒いつやのある岩板に名前を刻む作業は、うるま市の事業所で14日までに終えていた。17日、平和の礎では作業員5人が重機などを使い、うるま市から運んだ岩板を午前10時から約1時間半かけて慎重に設置した。

県平和・男女共同参画課の天願妙班長は「位牌や地域住民の証言があれば刻銘できる可能性も高いので、ぜひ申請してほしい」と呼び掛けた。